

ちから



浄土宗西山深草派宗務所
総本山 誓願寺
謹賀新年

◆ 目次 ◆

- 新春を迎えて
 - 開宗八百五十年に向けて ⑪
 - 賢問子行状記 ③②
 - インド ドタバタ 夫婦道中記 ⑤⑦
 - お釈迦さまの十大弟子 ②③
 - 総本山誓願寺だより
 - 何でも、お寺探偵団 Vol. 61
- 辺海山善證寺

◆ 誓願寺蔵 重要文化財 多聞天(毘沙門天)立像 常慶法師作(賢問子行状記より) ◆





謹賀新年

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、新型コロナウイルスが世界中で感染拡大し、多くの変異株も生まれました。総本山誓願寺においても、このコロナ感染拡大の影響を受けて、全ての行事、法要が延期、短縮となりました。昨今の世情は難しい課題が多く、決して楽観視できるものではありません。この厳しい現代において念仏の教えをいただいた私たちが、いかに行動していくか、覚悟をもつて取り組むべき時期に至っていると感じております。

令和六年は元祖法然上人により浄土宗が開かれて以来、八百五十年の節目を迎えます。八百五十年という歴史の長さは浄土宗が開かれて

から現代まで念仏の教えが途絶えることなく受け継がれてきた年月の長さです。この長い歴史を振り返ると、浄土宗をお開きになられた法然上人や念仏の教えを脈々と現代まで伝えて下さった先人の方々への篤い報恩感謝の想いを、改めて感じざるをえません。そして、今生きている私たちもこの念仏の教えを次の世代に伝えていかなければならないのです。

今年は穏やかで心豊かな暮らしが出来る年になりますよう、そして檀信徒の皆さまにとっても良い年でありませう、心から祈念し新年の御挨拶とさせていただきます。

令和四年 元旦

総本山誓願寺 第百三世

徳空賢道 謹識

開宗八百五十年に向けて

11

布教師会
畔柳 優世

二千五百年前から

今私達に伝わっているもの

令和六年に法然上人が浄土宗をお開き
なられてから八百五十年の節目を迎えま
す。

『観無量寿経』（以下『観経』）というお
経さまに、「汝、好くこの語を持って。この
語を持つと言ふは、即ちこれ無量寿仏の
名を持つとなり」とあります。二千五百
年前、お釈迦さまが阿難陀尊者に「南無
阿弥陀仏」のお念仏を伝えられました。
それが今でも脈々と伝わり、今を生きる
私達に伝わっています。

法然上人は八百五十年前、善導大師が
『観経』を解説した注釈書である『観無
量寿経疏』をお読みになりました。八
回目、お読みになられた時に、「上より
来、定散両門の益を説くといへども、仏
の本願に望むるに、意、衆生をして一向
にもつばら弥陀仏の名を称せしむるにあ

り」に出会われました。その時に、「そう
か阿弥陀仏の名をお称えすることが、仏
さまの願いであるのか」とお思いになり、
浄土宗をお開きになりました。

法然上人のひ孫弟子にあたり、浄土宗
西山深草派の大成者である顕意上人はこ
の箇所を、「上来と云う下は、…（中略）
：黒谷（法然上人）の宗義は此れに依つ
て立つ」と説明されています。法然上人
が浄土宗をお開きになられた根拠が示さ
れており、顕意上人も「南無阿弥陀仏」
とお念仏をお称えになりました。

また法然上人は様々な方に、「汝、好く
この語を持って。この語を持つと言ふは、
即ちこれ無量寿仏の名を持つとなり」と
常々仰られていたそうです。つまり、「南
無阿弥陀仏」のお念仏が大切であると仰
られ、「ただただお念仏を称えなさいよ」
とお勧めになりました。

では、私達はどうかやって「南無阿弥陀
仏」のお念仏を知りましたか。親が手取
り足取りお念仏をするように説明してく

れたのか、いやそうではありません。両
親や祖父母が手を合わす姿を見て、私達
も手を合わせるようになったと思います。
私にとっては祖母でした。

明治生まれの祖母は非常に信仰の篤い
人だったと思います。常々、仏さま
の前に座り、ひたすら手を合わせていた
方でした。お仏壇、お寺、お墓、一生懸
命お経を読み、手を合わせていた姿を見
て、私も隣で手を合わせるようになりま
した。自らの姿で私に手を合わせること
を教えてくださいました。

では、祖母は誰から教えてもらったの
でしょう。おそらく祖母の両親や祖父母
でしょう。その方達は誰から教えてもらっ
たのでしょうか。おそらく両親や祖父母で
しょう。何代も何代もずっとたどって行
けば、二千五百年前にお釈迦さまが阿難
陀尊者に「南無阿弥陀仏」を伝えたとこ
ろに行き着きます。

つまり、今私達がお称えしている「南
無阿弥陀仏」のお念仏、お釈迦さまが阿
難陀尊者にお伝えされた「南無阿弥陀仏」
のお念仏、法然上人がお称えなされた「南
無阿弥陀仏」のお念仏、顕意上人がお称
えなされた「南無阿弥陀仏」のお念仏も、
全て同じお念仏なのです。

「ただただありがたい」
私はそう思います。

賢問子行状記

32

宝蔵寺住職 小島英裕

第二十話

「海賊、菩提心をおこす」

六十六代一条天皇の時代、西国に一人の屈強な海賊がいました。いつも五百人の仲間を引き連れ、海上では旅客船を狙い商人の財宝を横領し、山里では往來の旅人を狙い金銀を奪いました。人々は噂を聞き心が安まりません。

ある時、この海賊が京都に来て、誓願寺で休んでいました。もともと良心もなければ、仏を拜む心もありません。ところが何となく堂内に入ってご本尊を見てみると、身の毛がよだち、自ら信心が起こり、これまでの非を改め悪業を止めて、念仏の行者となりました。重悪人に、あつという間に菩提心が起こる。こんな不思議

議なことはありません。前世からの習慣なのか、それとも靈仏である阿弥陀さまの徳によるものでしょうか。海賊は、この志を妻子に知らせるため西国に帰ろうとしましたが、ご本尊と別れることは悲しいことでした。そこで、一寸八分の阿弥陀仏像を造り、いつも首に掛けて敬いました。

ある日、海賊の仲間が捕らわれ拷問となり、

「彼こそが海賊の張本人」

と親分を訴えたので、一条天皇は追討の命令を藤原保昌に下しました。保昌は勇士を引率し、難なく海賊を捕縛しました。寛弘五年（一〇〇八）、七条河原に海賊を引き出し、首を討ちました。ところが太刀が真つ二つに折れ、海賊の体に怪我はありません。人々は怪しみ、その理由を

問いました。海賊は、

「私は悪事を止めてから、深く誓願寺の阿弥陀さまを信仰し、その仏像を一寸八分の大きさに鑄造した金銅仏を首に掛けて、ひたすら念仏をしています。もしかすると阿弥陀さまのご擁護なのかもしれません」

と語りました。警固の者が見てみると、仏に太刀の跡があります。奇妙なことなので保昌は天皇に報告しました。天皇は、「悪心を改め、靈験を受ける者ならば、罰する者ではない」

と死罪を許されました。それから海賊は益々信心深くなり、誓願寺で出家し常慶法師となりました。米や麦などを断ち木の実を食べて、托鉢行脚の苦行を続け、誓願寺の梵鐘を鑄造しました。さらに過去を振り返り「悪心は貧苦から起こる」と、人々を貧苦から救うため、自ら多聞天像一体を刻みました。一度斧を振るつては三度礼拝し「一切衆生満足諸願」と称え、三年を費やしました。完成した多聞天像は誓願寺本堂外陣に安置されました。

(つづく)



歩き回ったデリー

デリー城から南に大通りに沿って、ネルー首相記念碑やインディラ・ガンディー記念碑、ラジブ・ガンディー記念碑のある広大な公園を歩き、インド独立を導いた、マハトマー・ガンディーが荼毘に付されたラージ・ガートまでの約二キロメートルを、知らない内に歩いてしまっていた。

広さ約三メートル四方、高さ六〇センチ程の黒大理石の平らな台座がある。台座の上にはマリーゴールドなどの花が供えられ、人々はその周囲を右回りにゆつくりと歩いて回っていた。僕たちも履物を脱ぎ、合掌しながらその周囲を三周した。

陽も高くなり暑かったので、日陰を探して一休みした後、オート・リクシャーを拾い交渉の結果、一〇ルピー(約二五

円)で、西に約二・五キロメートルのコンノート・プレイスに向かった。コンノート・プレイスはインドに着いた翌日に、ニュー・デリー駅で、旅行会社の男に巧みに騙されて(?)向かった場所である。だが今度は最後の買い物の下見で、残り三日をできる限り有効に使うために、自分たちで決めて向かった事だ。この場所はこの旅行記の始めの方でふれたようにインドの経済の中心地で、あらゆる物が集まってきている。インド各州の物産店もここにあり、公正な値段で売っているので安心できる。取り敢えずランチにはピリヤーニ(焼き飯)とサラダ、そしてラッシー二杯を頼み、しめて一一五ルピー(約一九〇円)で元気をつけて各州の店を歩き回った。

各州の店といっても規模はバラバラで、ビルの三階まである店から、定食屋の様にこぢんまりとした店まで、整然と立ち並

んでいる訳でもなく、点在しているのが全州あるのかも定かではない。だから店員も一人だけの店から二〇人くらい居るような店まで、また制服で揃えた店もありバラエティーに富んでいるのが面白い。余談ではあるが、僕がある州の店で品物を眺めていた時、何人かの女性店員の視線が僕に集まっているのを感じた。それも足元の方にある。五本指の靴下にゴム草履を履いていたので、どうやら五本指の靴下が珍しい様だったのだ。僕はすかさず指差して「日本製だよ」と言ったら、「ホーッ！」といった感じの反応が返ってきた。



ラージ・ガート(デリー)

お釈迦さまの
ご生涯
外伝

お釈迦さまの十大弟子 23

絵・豆田織奈 文・釈尊法話会

多聞第一の阿難陀尊者(その3)



阿難陀尊者がお釈迦さまの侍者となつてからは、一日も側を離れることはありませんでした。座禪をなさる時も、弟子や信者に教えを説かれる時も、一日足りともです。お釈迦さまの側で説かれた教えを常々聞いていました。弟子の誰よりも、信者の誰よりもです。阿難陀尊者には、お釈迦さまの尊い教えが、常に届いていました。

しかし、仏弟子となつた限りには覚りを求め、お釈迦さまの教えに従い修行をし、最終目標の阿羅漢にならねばなりません。当時のインドでは、阿羅漢になるために、多くの人が修行をしておりました。阿難陀尊者はどうだったのでしょうか。お釈迦さまが涅槃に入られるまでの二十五年間、側にいて多くの教えを聞いたのですが、お世話に時間を取られ、修行をすることがなかなか難しかったのです。お釈迦さまが涅槃に入られた時、阿難陀尊者は阿羅漢になっていませんでした。

お釈迦さまが涅槃に入られ、荼毘にふし、遺骨が埋葬されてからのことです。当時の弟子はお釈迦さまの教えを聞いて修行に励んでいましたが、紙に書かなかつたので、それぞれ記憶違いがあり、論争が起りました。

「私は師匠からこう聞いた」
「いや、おぬしの言っていることは間違っている。私が聞いたことが正しい」

同じことを聞いていても、長い年月が経つとそれぞれ

れ覚えていたことに違いが生まれました。

お釈迦さまに代わり、教団を引き継いだ摩訶迦葉尊者は、

「これでは師匠の正しい教えを残すことはできない」と憂い、結集を開くこととしました。結集とは、代表者が大勢の弟子の前でお釈迦さまの教えを発表し、正しいかどうかを確認し合うことです。初めての結集です。歴史的には「第一結集」と言われています。

摩訶迦葉尊者は、五百人の阿羅漢を集めて結集を行うこととしました。それを聞いた阿難陀尊者は、

「私はまだ阿羅漢にはなっていないが、これだけ師匠の教えを側で聞いたのだから、呼ばれるだろう」と思っていたのです。しかし、いつになつても声が掛かりません。しびれを切らした阿難陀尊者は、摩訶迦葉尊者に言いました。

「何故、結集に私を呼んで下さらないのですか？私には長い時間、師匠のお側にいて、誰よりも教えを聞きました。私が一番師匠の教えを知っております」

「阿難陀尊者よ、分かっているのか。そなたは阿羅漢ではない。いくら師匠の教えを誰よりも聞いたと言つても、阿羅漢でない限り信用はできない。そなたを結集に加えることなど言語道断！」

と摩訶迦葉尊者は阿難陀尊者を退けました。阿難陀尊者は悲しくて仕方ありません。その晩、泣きながら床に入っていました。なかなか眠れません。しかし、

「心を乱してはならない。心を乱されてもならない」と言うお釈迦さまの言葉を思い出し、心を落ち着ける為に座禪を始めました。すると、阿難陀尊者の心が次

第に晴れわたり、ついに阿羅漢果に到達したのです。阿難陀尊者は阿羅漢となつたのです。それを知つた摩訶迦葉尊者が阿難陀尊者の元へやってきました。

「阿難陀尊者よ。申し訳なかつた。そなたには是非とも結集に参加して頂きたい。そなたが代表として『経』(お釈迦さまの教え)を唱えて頂きたい」

「ありがとうございます」

実は五百人の阿羅漢のうち、四百九十九人が決まっていた。最後の一人には阿難陀尊者を参加させたいと思つていた摩訶迦葉尊者が、わざと厳しいことを言ったのです。

結集が開かれ、阿難陀尊者は二十五年間お釈迦さまから聞いた多くの教えを伝えました。そして今、私達の元へ、「如是我聞(このように私阿難陀は聞きました)」と始まるお経が阿難陀尊者のお陰で伝わっております。(終わり)



結集で語る阿難陀尊者

拒否する摩訶迦葉尊者

謝る摩訶迦葉尊者

総本山誓願寺だより

節分会

令和四年二月三日 (木)

大般若転読会

無病息災・心願成就・芸道上達等、皆さまの願い事を仏さまに祈願致します。

●午前十時～十二時

●午後三時～四時

日本舞踊・長唄奉納

●午後一時半～

〔演目〕

長唄

〔勸進帳〕名場面 弾語り

日本舞踊

〔島の千歳〕・〔新京極萬歳楽〕

〔出演〕

日本舞踊・

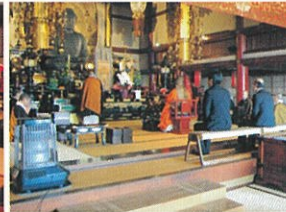
長唄桜流 桜 富寿佐

誓願寺僧侶

※ハンカチまき・豆まきなし

扇塚法要

古くなった扇の
供養を致します。



おもな行事予定

一月

●一日(元旦)

修正会

●十五日(土)

六阿弥陀功德日

●二十四日(月)

法然上人追慕念仏行脚

二月

●三日(木)

節分会

●八日(火)

六阿弥陀功德日

●十五日(火)

涅槃会

三月

●十四日(月)

善導忌

六阿弥陀功德日

●十八日(金)～二十四日(木)

春彼岸

○各行事を予定させて頂いておりますが、世の中の状況により変更、又は中止になる場合がございます。その際は、誓願寺ホームページにて公表させて頂きます。何卒ご了承下さいますようお願い申し上げます。

クイズコーナー

【問題】

「賢問子行状記」より、勇士を引率し、海賊を捕縛したのは誰ですか？

○ ○ ○ ○ ○

ハガキに、【答え、郵便番号、住所、氏名、電話番号、菩提寺(だんな寺)、感想】を書いてご応募ください。なお、ご提供いただいた個人情報につきましては、プレゼントの発送のみに利用いたします。今回は倉内親下御染筆の色紙を1名さま、善證寺さまより募参セットを5名さま、本山謹製線香を5名さまに抽選して差し上げます。ご応募お待ちしております。

【宛先】〒443-0105

愛知県蒲郡市西浦町北馬相十一番地
覚性院内 ちかい編集係

答え ○○○○
郵便番号
住所
氏名
電話番号
菩提寺(だんな寺)
感想

【締切】一月三十一日
(消印有効)

ちかい 第163号

発行日 令和三年十二月五日
発行所 浄土宗西山深草派
総本山誓願寺
京都市中京区新京極桜之町四五三番地
電話 (075) 221-0958
FAX (075) 221-2019
E-mail info@fukakusa.or.jp
URL http://www.fukakusa.or.jp/

何でも

お寺探偵団



善證寺

Vol.61



profile

林 清明師 (善證寺 第27世) 62歳

大学卒業後、1年間総本山誓願寺での随身を経て教員生活を送る。平成22年に第26世清道上人を後継し、現在に至る。

ご住職とはいつも、吉良のお寺の盆施餓鬼などの法要でご一緒させて頂いています。長く教職に就かれており、生徒さんの親子関係や家族構成の変化についてもよくご存じて色々な情報を頂きます。お寺を取り巻く環境の変化も同様であり、その変化に抗うのではなく如何に順応していくかが大切だとお話しくださるご住職です。

お寺の境内には樹齢何百年かの横の大木が何本もあります。今後何百年経って木が寿命を迎える頃、懐かしい横の木でこしらえた大浴槽でお風呂をいただけるかもしれません(笑)。(探偵H・K)

探偵 H・K

今回は愛知県西尾市の「**辺海山善證寺**」を訪ねました。

を受けて**秀譽要玄和上**と名乗り、初代住職となりました。

そして文化12年(1815)に12世**萬康上人**が本堂を再建し、現在に至ります。

Q3 お坊さんとしての心がけを教えてください。

時代の変化とともに在家の様子も随分と変わってきましたが、ご先祖さまを想う気持ちは変わらないように思います。しかし、諸事情からご先祖さまのお位牌やお墓の引継ぎで不安を抱えておられる方も多くおられます。そうした方の不安を少しでも取り除き、全てのお檀家さんが安心して阿弥陀さまを迎えられるよう努めていきたいと考えています。

Q1 お寺の歴史を教えてください。

昔、愛知県幡豆郡鳥羽村周辺で農作物の不作、魚貝の不漁が続き、村人達を困らせていました。そこでその地に住む松右衛門という地主の子息が危機を救うべく出家し念仏者となりました。そしてその子息が阿弥陀如来の尊像を安置し、専修一行念仏に励みました。その姿を見た松右衛門の呼び掛けで、正保元年(1644)に本堂を建立し善證寺と名付けました。その折、その子息は伝法伝戒

Q2 お寺にはどんな仏さまが祀られていますか？

本尊は阿弥陀仏三尊立像です。その他、本堂内に善光寺用式阿弥陀三尊像(一光三尊阿弥陀如来像)や弘法大師像が祀られています。

境内には地蔵菩薩、閻魔十王を安置した十王堂、観音勢至の像を奉安した観音堂があります。

Q4 「ちかい」の読者に何か頂けませんか？

墓参セットを5名さまに差し上げます。

【交通】
名鉄蒲郡線 三河鳥羽駅より徒歩15分

【主な行事】
春彼岸会 3月彼岸
弘法さん 旧3月21日
盆施餓鬼会 8月9日
秋彼岸会 9月彼岸

【お問い合わせ】
善證寺
〒444-0704
愛知県西尾市鳥羽町里30
電話 0563-62-5336



観音菩薩



閻魔大王



▲本堂外観



▲山門